

## 〔編集後記〕

『社会科学ジャーナル』第26号(2)は、前号が特集号ではなかったわりに、申込みが多く、そのなかから選び出す作業はきわめてむづかしいものとなった。年に2回の刊行というのは、もちろん予算上の制約から決められたものであるが、折角の力作を discourage してしまう可能性が大きいと思う。

とくに本誌のように、既成の先生方の作品と開発途上国というと失礼だが、これからという人々の作品を、あるバランスで載せるという場合、どうしても割をくうのは若い方々ということになる。若向きのジャーナルをもう一つ準備するというのは不可能であろうと思われるので、それにかわる working paper でも並行してつくることはできないものであろうか。

第27号(1)は申込みが少なく、丁度よい本数となったのであるが、これとて今はやりの discouraged worker の存在が考えられるので、なにか新しい工夫を求めたいものである。

(木村憲二 記)